

事業計画及び成長可能性に関する事項



株式会社セルシード

2026年3月

証券コード：7776



目次

● 会社概要

● 各事業の進捗状況

- 細胞シート再生医療事業
- 再生医療支援事業
 - ① 再生医療受託事業
 - ② 細胞培養器材事業

● 事業計画



セルシード：会社概要

設立： 2001年（平成13年）5月
基盤技術： 温度応答性ポリマーを用いた細胞シート工学
上場市場： 東京証券取引所グロース（7776）

セルシード本社

東京都江東区青海二丁目5番10号
テレコムセンタービル東棟 15階

細胞培養センター (CPC)

テレコムセンタービル東棟 6階
延べ床面積 約763 m²

(特定細胞加工物製造許可：FA3160008)
(再生医療等製品製造業許可：13FZ110001)

セルシード青海セルカルチャーイノベーションセンター

(細胞培養器材製品開発・製造施設)

東京都江東区青海2-4-32
タイム24ビル 1階・7階

(ISO9001認証取得)

テレコムセンタービル



タイム24ビル





沿革



2021

- ・セルシード創立20年
- ・青海セルカルチャーイノベーションセンターを新設

2022

UpCell®シリーズの新製品販売開始

2023

同種軟骨細胞シート
の治験届を提出

2025

同種軟骨細胞シート
治験の第1症例登録

2026

セルシード創立25周年



2018

再生医療受託
サービス開始

2017

- ・特定細胞加工製造許可の取得
- ・MetaTech社（台湾）へ食道・自己軟骨シートの導出

2016

- ・テレコムセンターへ移転
- ・食道再生上皮シート
の治験開始
- ・細胞培養センター設立

2015

セルシード スウェーデン
をストックホルムに設立



2001

セルシード設立



2004

RepCell®,
HydroCell®の販売開始

2007

・UpCell®の販売開始

2008

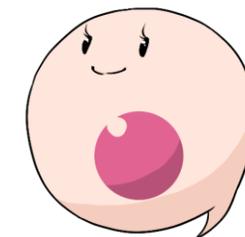
東京女子医科大学で食
道再生上皮シートの臨床
研究開始

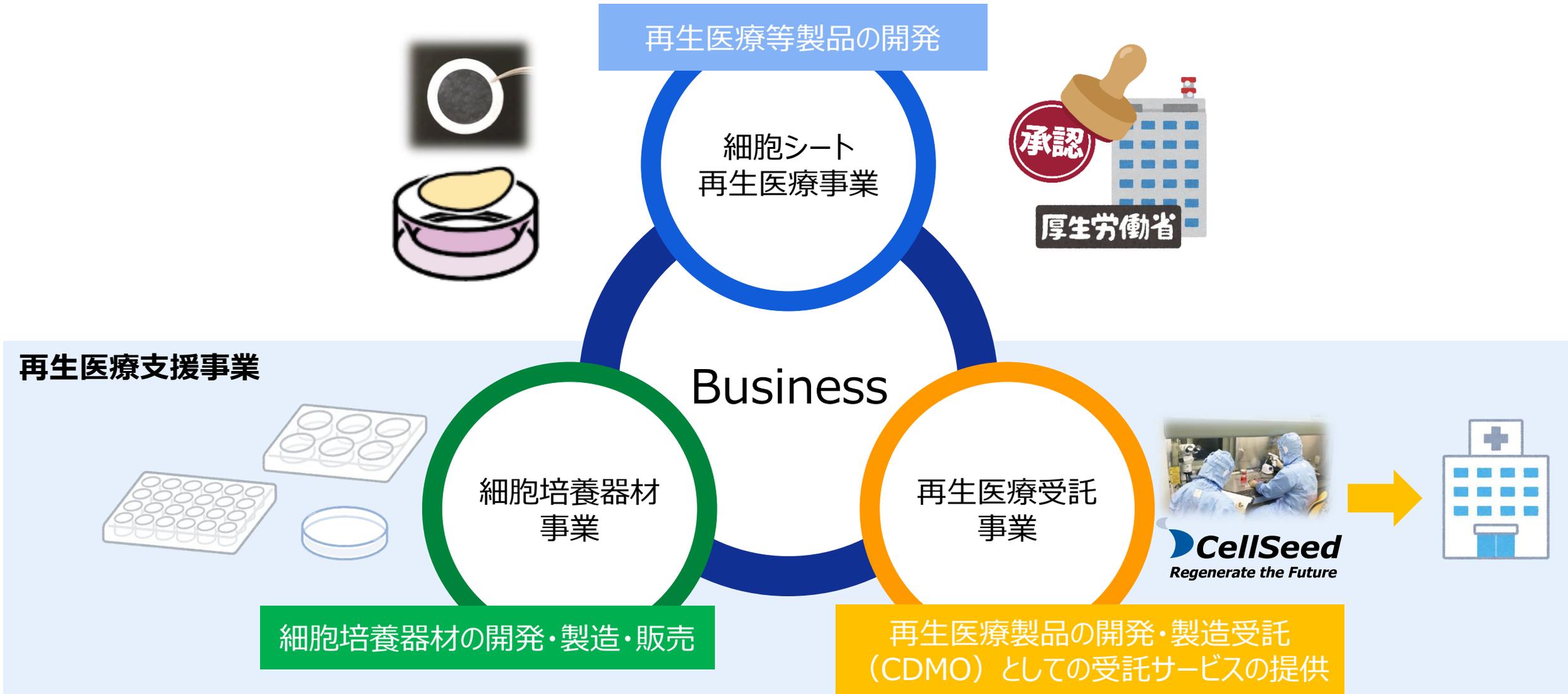
2010

JASDAQ上場

2011

東海大学で軟骨細胞
シートの臨床研究開始







Our MISSION & VISION

セルシードは、創立25周年を機に、新たなMission & Visionを掲げ
世界へ広がる再生医療のさらなる発展に貢献します



MISSION

細胞の力で、
世界に笑顔と希望を
提供します



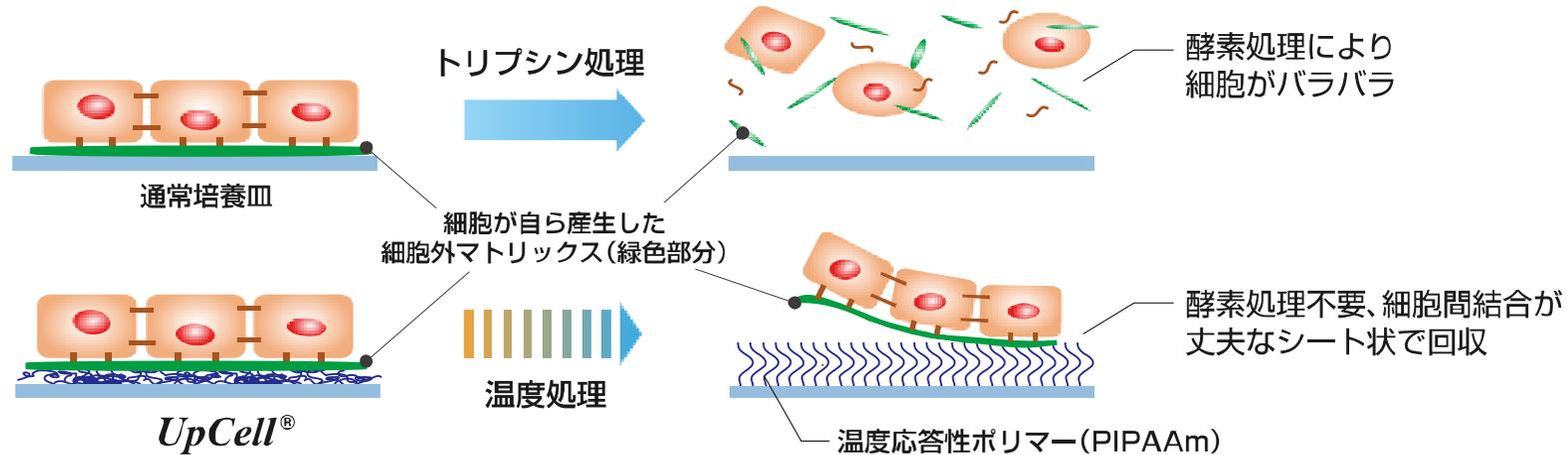
VISION

私たちは
細胞シート工学を基盤に
新たな医療の未来を
創造します

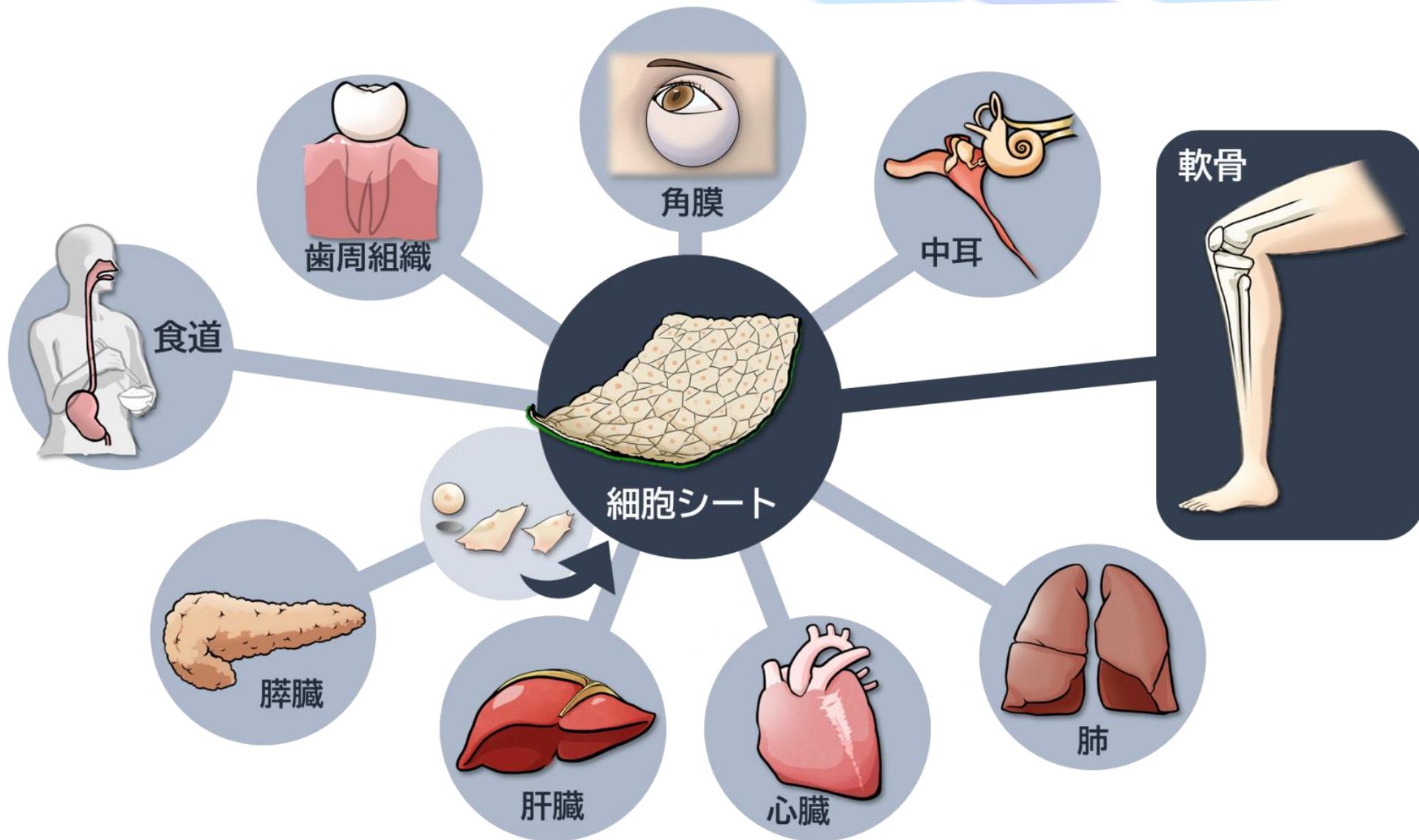
日本発・世界初のプラットフォーム技術（東京女子医科大学 岡野光夫教授が発明）

37℃ 疎水性 ⇔ 20℃ 親水性

UpCell®と通常培養皿との細胞回収比較

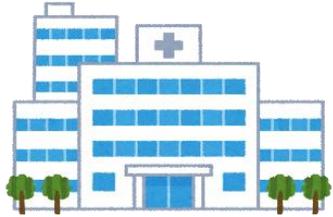


- 温度応答性ポリマーで表面を加工した細胞培養皿で細胞を培養
- 温度を変えるだけで、細胞外マトリックスを保持したまま有機的に結合した「細胞シート」を培養皿から回収可能



再生医療等安全性確保法 (安確法)

医師の責任の下で実施される再生医療等を規制する法律



リスクに応じて第1種から第3種に分類される
医療機関が提供計画を提出
認定再生医療等委員会で評価

自由診療

臨床研究

先進医療

6,000件を超える提供計画

医薬品医療機器等法 (薬機法)

企業が製造販売する再生医療等製品を規制する法律



企業が実施する治験
医師主導治験

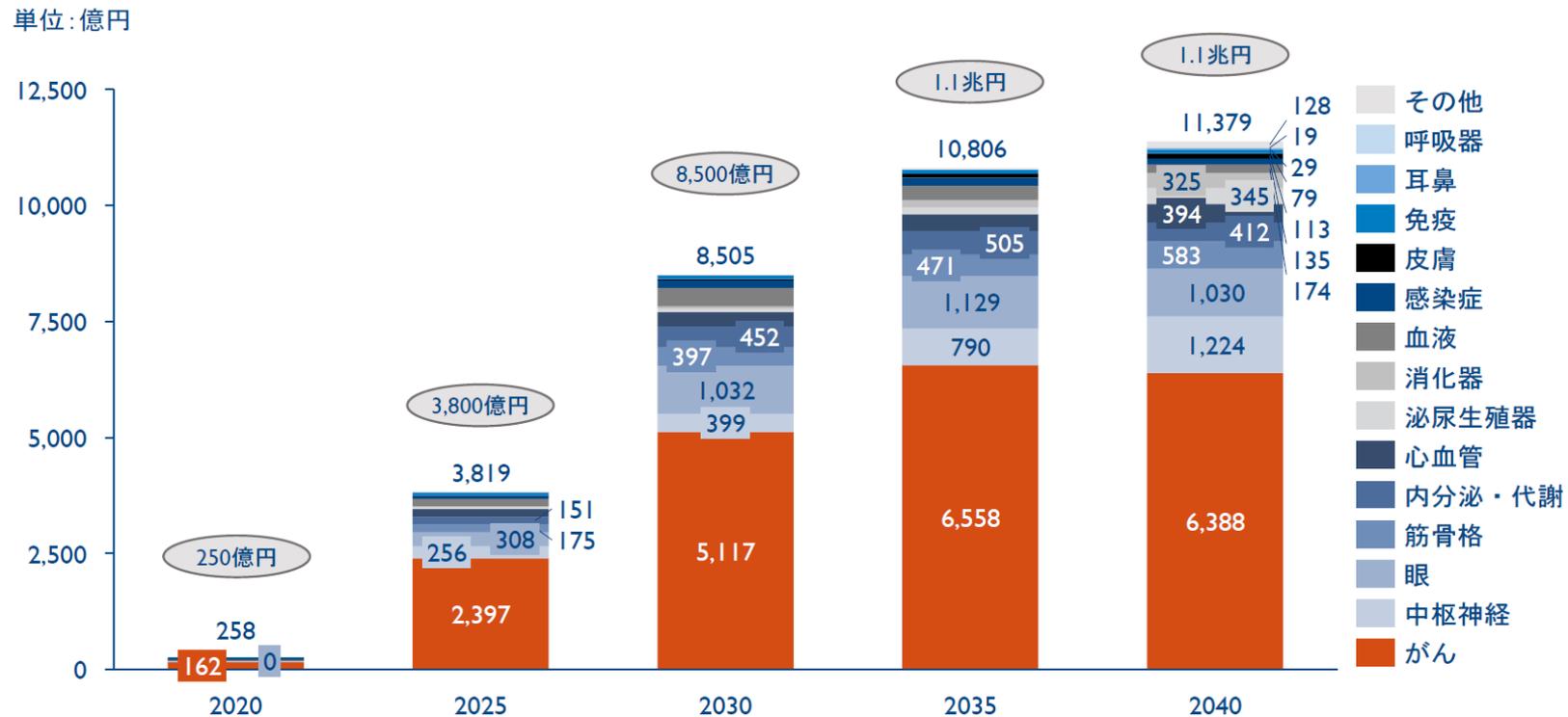


製品として承認
保険収載

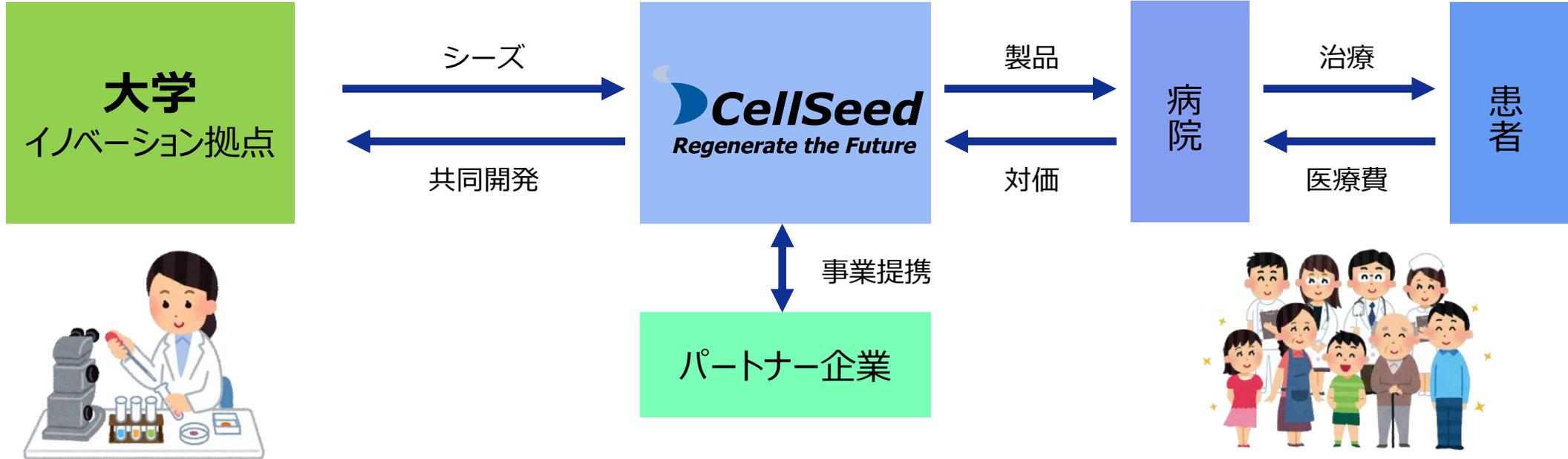
これまでに26品目承認

- 国内市場規模：2030年は8,500億円、2040年は1.1兆円と推定
- 世界市場規模：2030年は7.5兆円、2040年は12兆円と推定

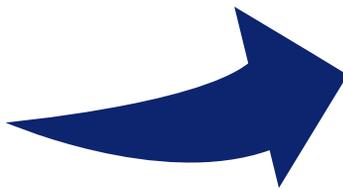
国内市場規模推計（疾患別）



出典：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「2019年度 再生医療・遺伝子治療の市場調査 最終報告書」



大学で生まれ、ベンチャーで育てた技術を一日も早く、患者さまのもとへ



当社は一貫した品質及びサービスを提供するために、以下を取得し、維持しております。

● ISO9001の認証維持



- **取得日**
2020年1月6日
- **認証範囲**
 - ・細胞培養器材の設計及び製造管理
 - ・細胞特性モニタリング装置及び測定機の販売

● 特定細胞加工物製造許可



- **取得日**
2017年3月13日
- **施設番号**
FA3160008
- 安確法下での特定細胞加工物の製造が可能

● 再生医療等製品製造業許可



- **取得日**
2018年10月1日
- **製造業許可番号**
13FZ110001
- 薬機法下の再生医療等製品の製造が可能



VISION2030: 2030年のセルシードの目指す姿

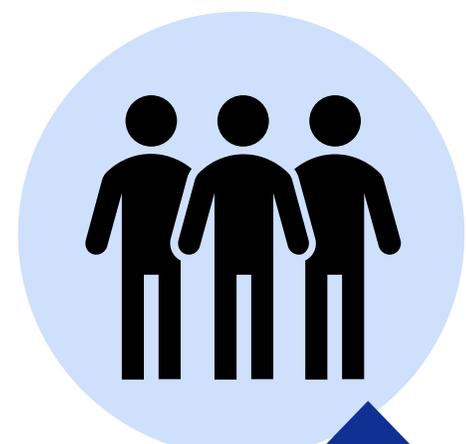
創立25周年を機に、「VISION2030」を策定しました



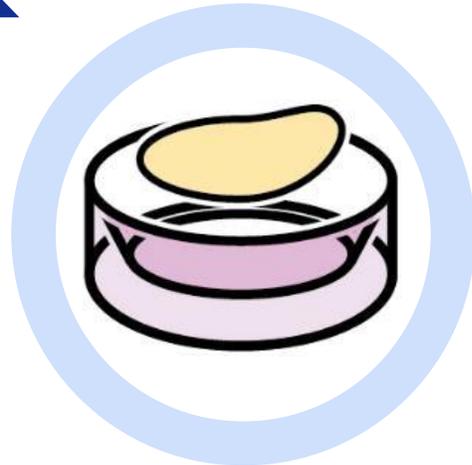
売上高



時価総額



人員増



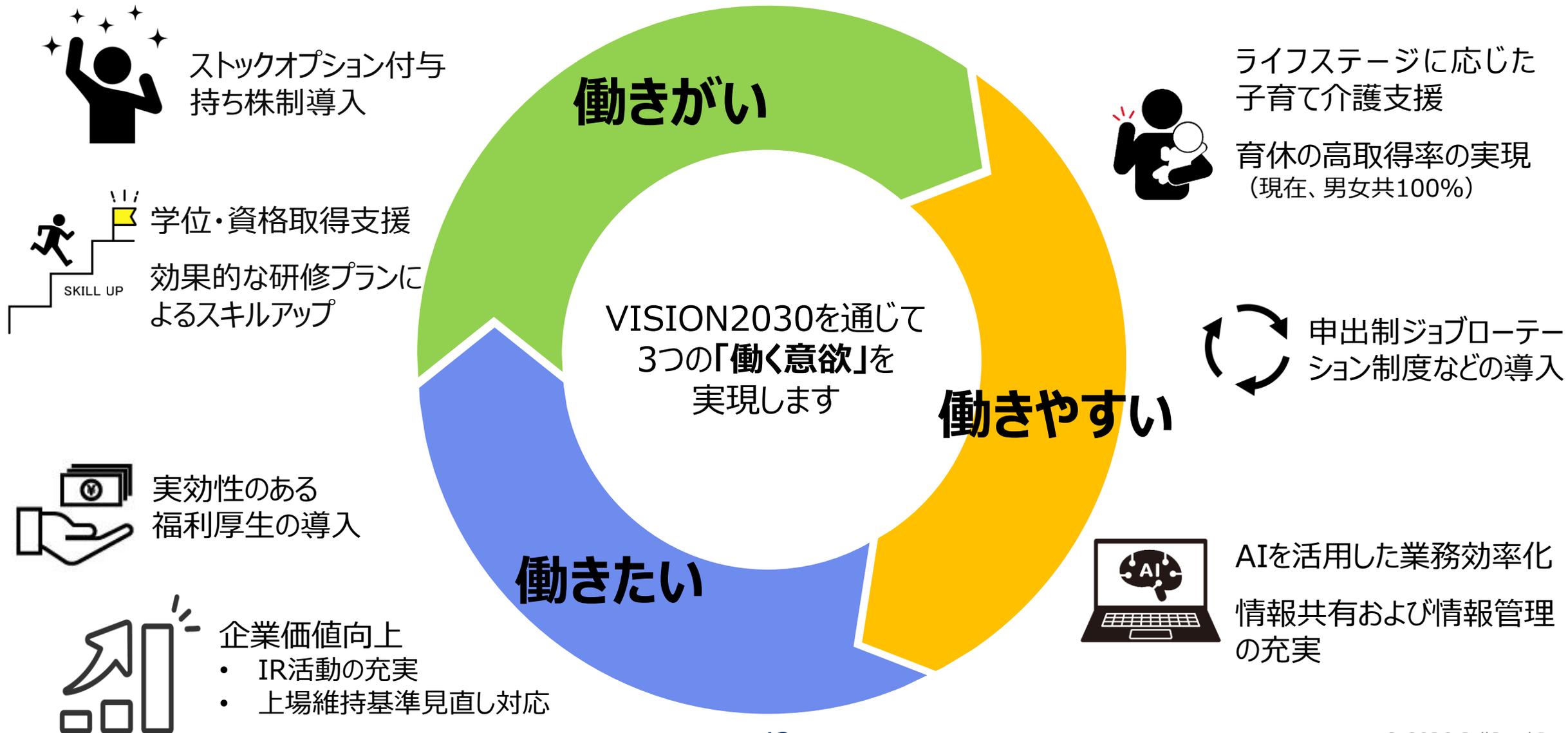
複数の開発パイプライン



高品質製品の
恒常的提供



VISION2030: 企業価値創造および人財確保と育成





目次

● 会社概要

● 各事業の進捗状況

■ 細胞シート再生医療事業

■ 再生医療支援事業

① 再生医療受託事業

② 細胞培養器材事業

● 事業計画

- 緩徐に進行する難治性の関節軟骨変性
- 根本治療がない



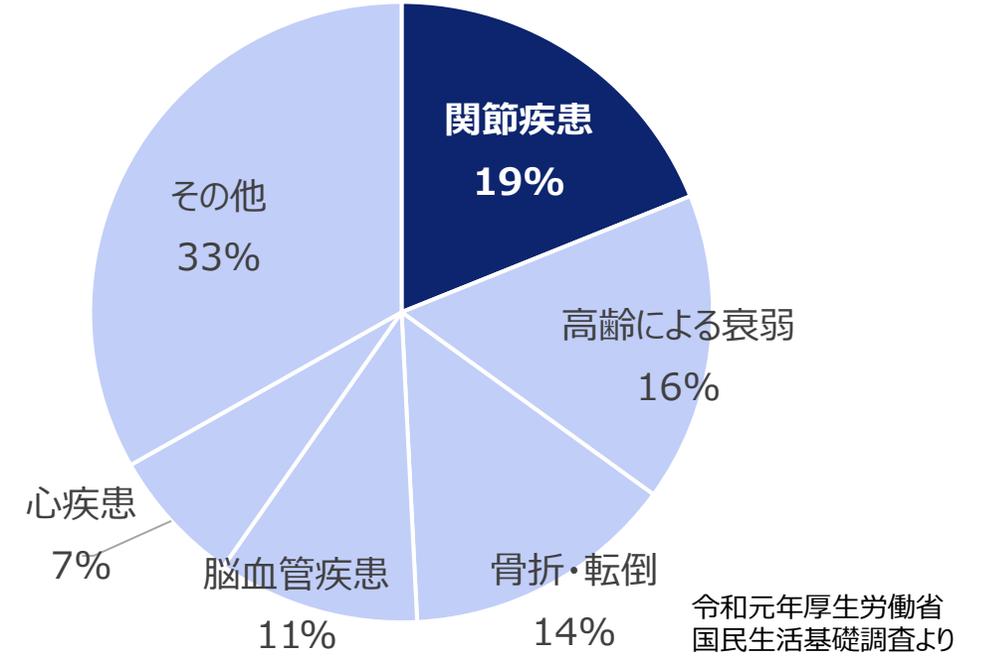
潜在的患者数
約3000万人
(国内)



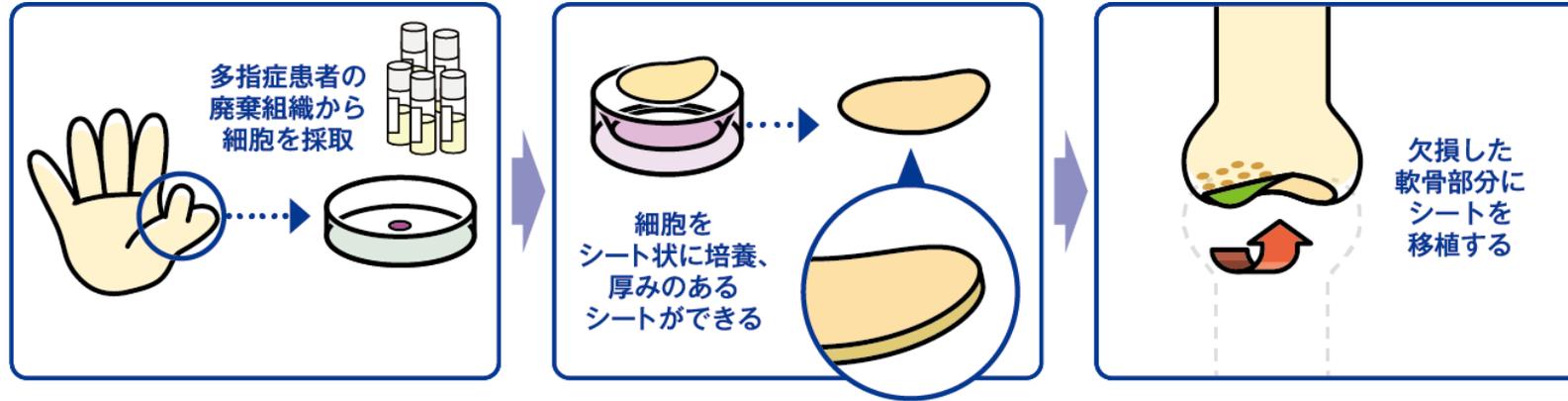
有症者数
約1000万人
(国内)

- 高齢になるほど有病率が高い
- 男女比は女性が1.5~2倍
- 高齢化により患者数の増加が予測される

要支援・要介護になった原因



**国民健康寿命・介護費・医療費の観点から、
変形性ひざ関節症は喫緊に対処すべき疾患**



技術シーズ



臨床研究において、
10症例全例で良好な結果



技術移転



再生医療等製品として開発

原料供給体制



2020年より国立成育医療研究センターから産業利用可能な多指(趾)症患者由来の軟骨組織提供開始



国内での細胞の安定供給体制を構築



細胞シート再生医療事業：同種軟骨細胞シート

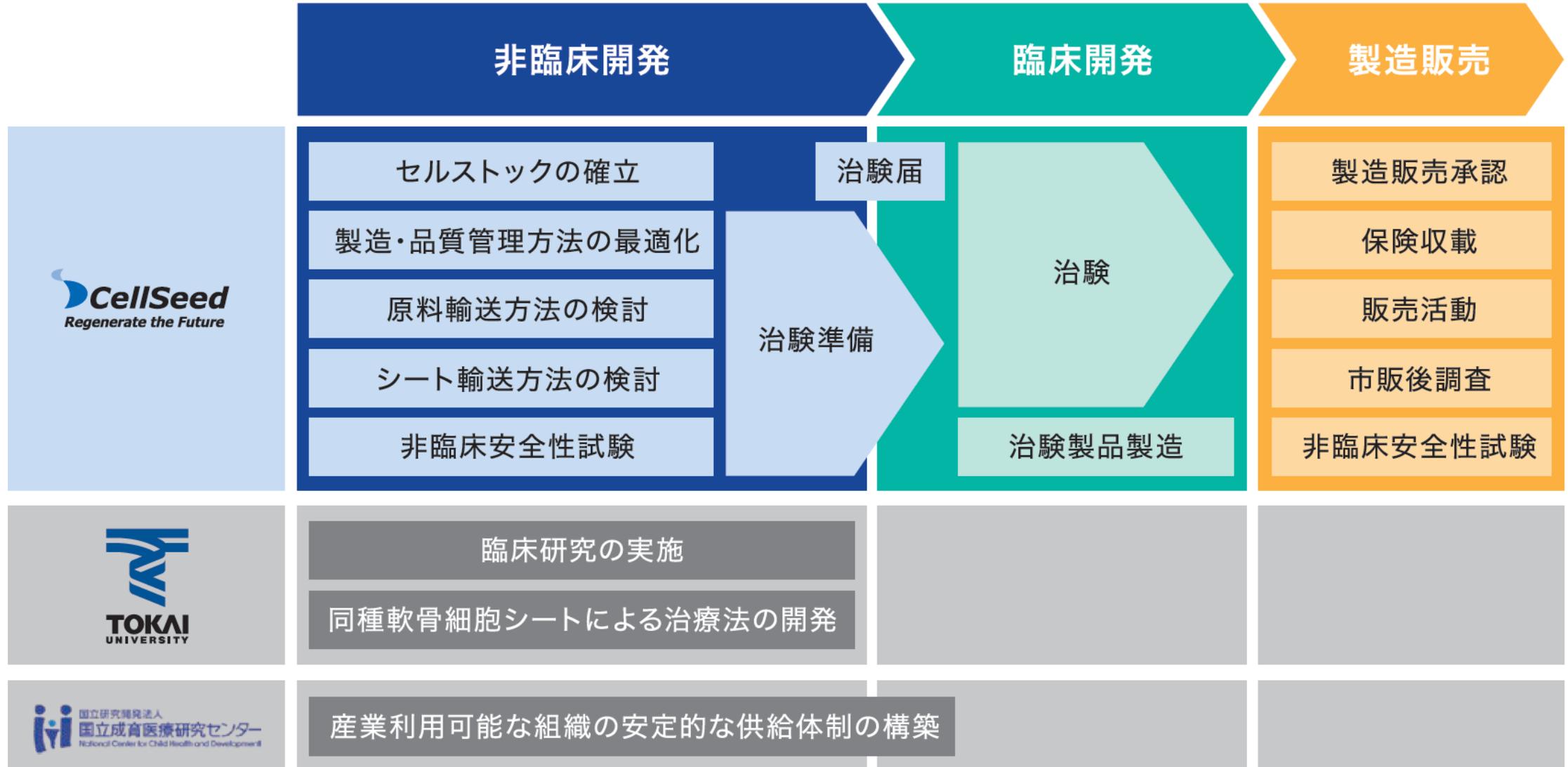


多指（趾）症患者の廃棄組織より採取した軟骨細胞をシート状に培養し、軟骨の欠損部位に同種移植する製品として開発中です。

2017年	東海大学にて世界で初めての移植手術実施
2017年-2019年	東海大学にて10名の移植手術実施
2018年9月	AMEDの補助事業「再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業（再生医療シーズ開発加速支援）」に採択
2020年12月	成育医療センターからの商業利用可能な組織を提供
2021年7月	AMEDの補助「再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業（再生・細胞医療・遺伝子治療産業化促進事業）」に採択
2023年9月	治験届提出
2025年10月	第1症例登録
2029年	製造販売承認申請予定

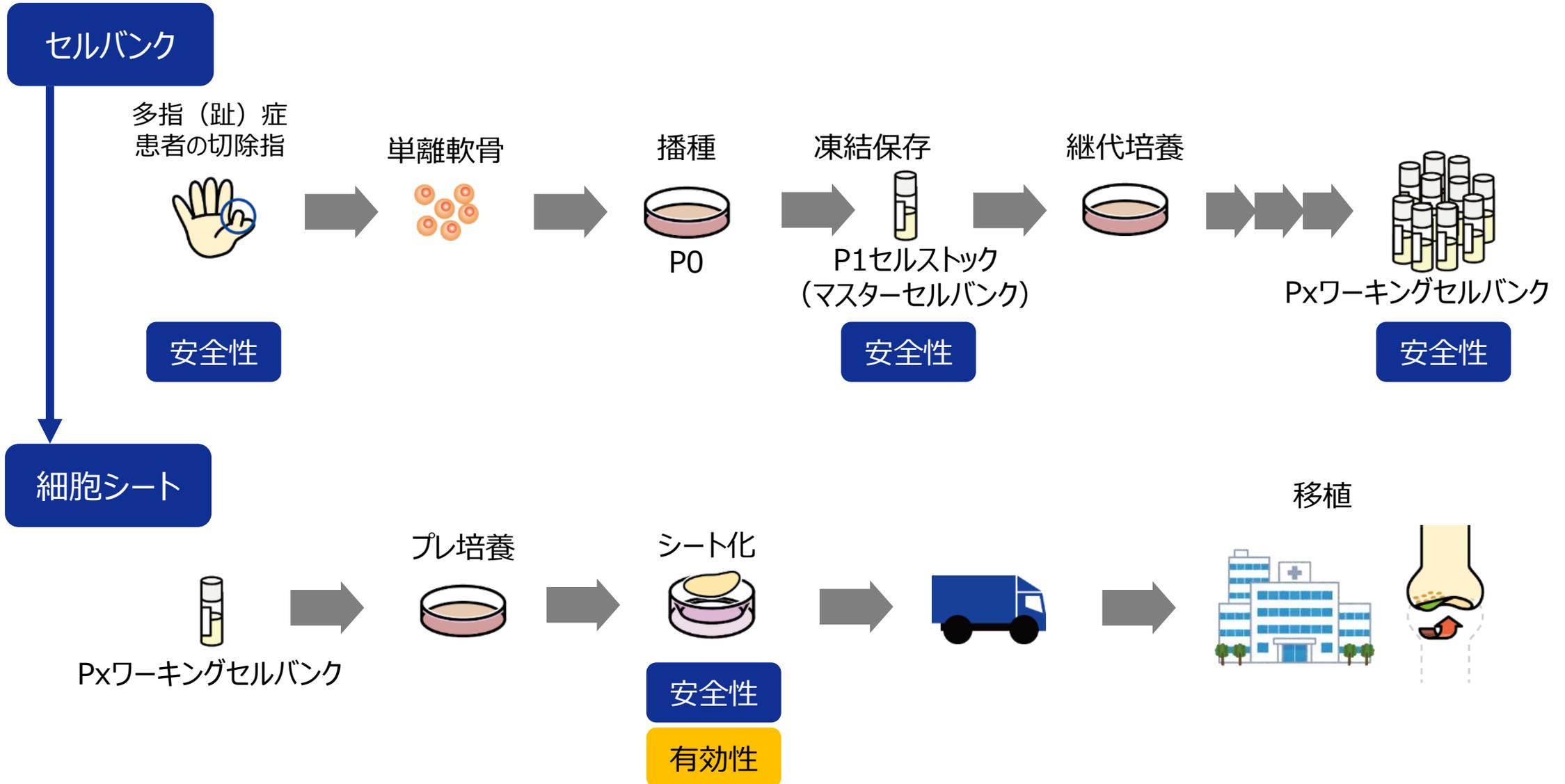


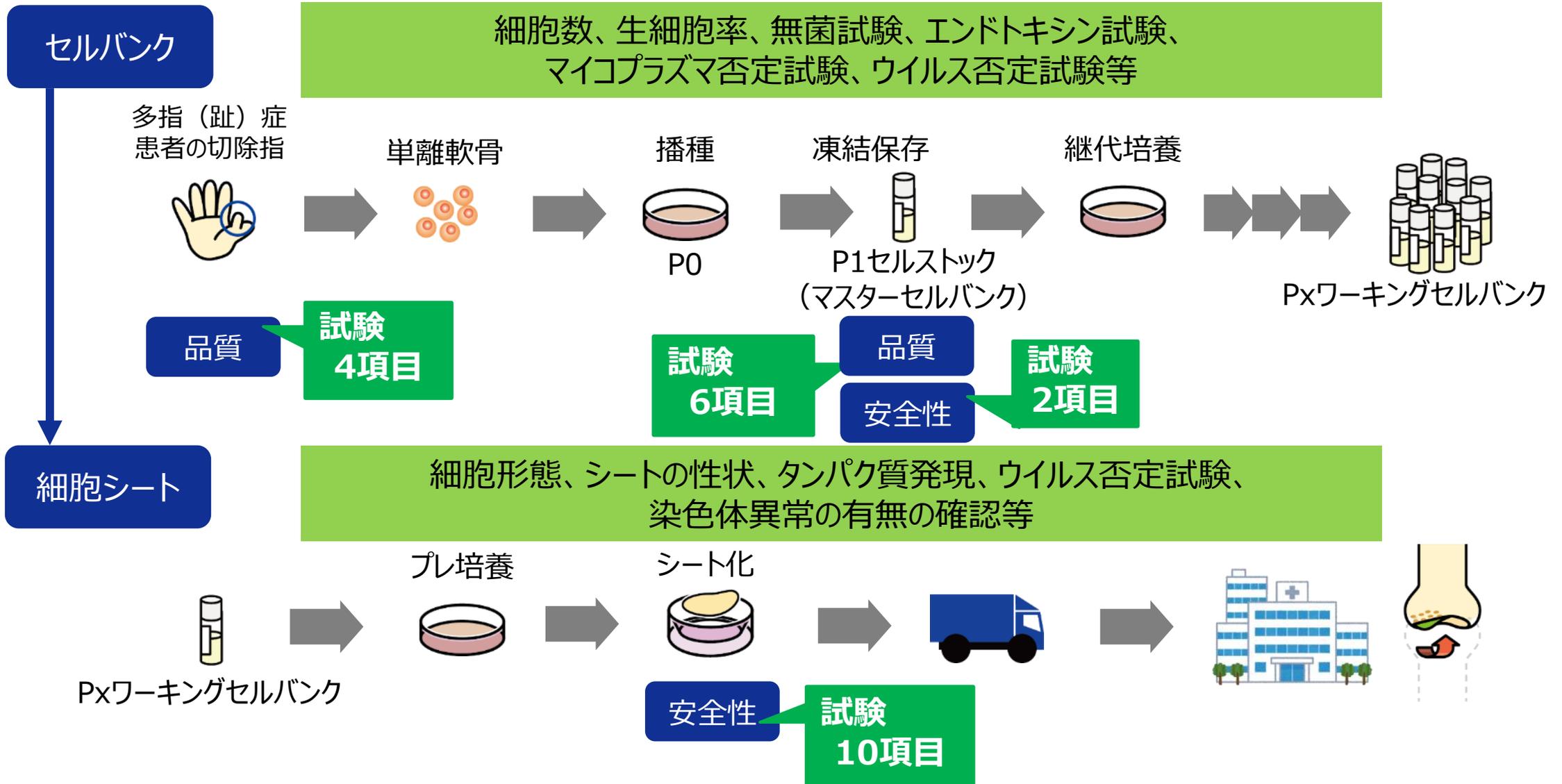
同種軟骨細胞シートの開発の流れ





同種軟骨細胞シート (CLS2901C) の製造プロセス





対象患者：変形性膝関節症を有しており、脛骨近位骨切り術（HTO）の適応となる患者

治療の流れ



実施施設：東海大学医学部附属病院、横浜石心会病院、海老名総合病院
順天堂大学医学部附属順天堂医院、横浜市立大学附属市民総合医療センター
横浜南共済病院の6施設

2025年10月第1症例登録、現在、各治験実施施設にて計画通り治験進行中



同種軟骨細胞シート ビジネスモデル



第3相試験

製造販売
承認

販売開始

A 自社で製造・販売を行う



B 自社で製造し、提携先が販売を行う

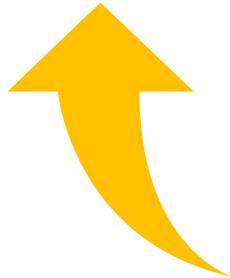
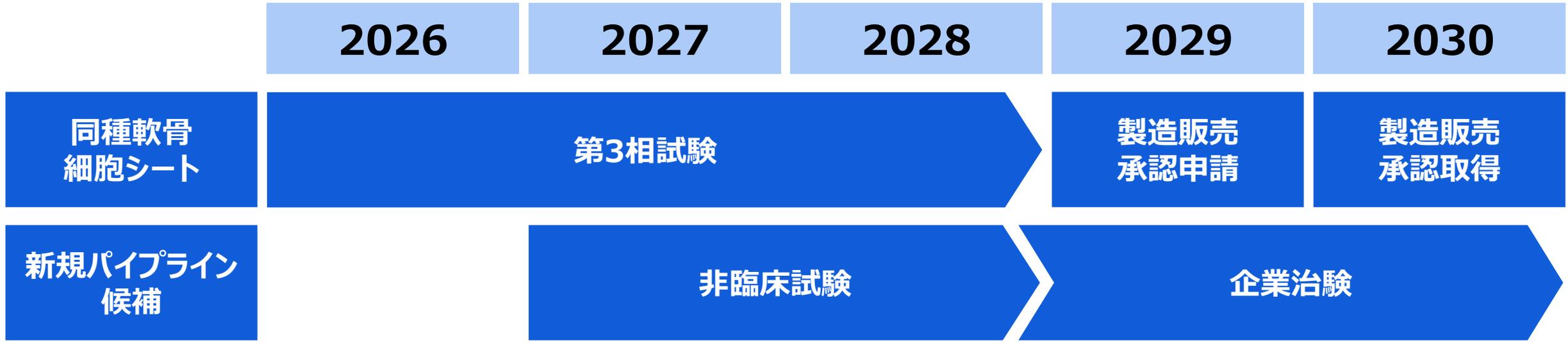


C 提携先が開発、製造販売を行う（海外の場合）





VISION2030: 細胞シート再生医療事業



- 共同研究** 細胞シート工学を用いた中枢神経損傷関連疾患の新規治療方法に関する共同研究 (北海道大学)
- シーズ探索** 再生医療学会、再生医療JAPAN、細胞シート工学イノベーションフォーラム等でのシーズ探索を継続的に実施

細胞シート再生医療事業の目指す未来

- ① 同種軟骨細胞シートの承認取得
- ② 複数の開発パイプラインを保有



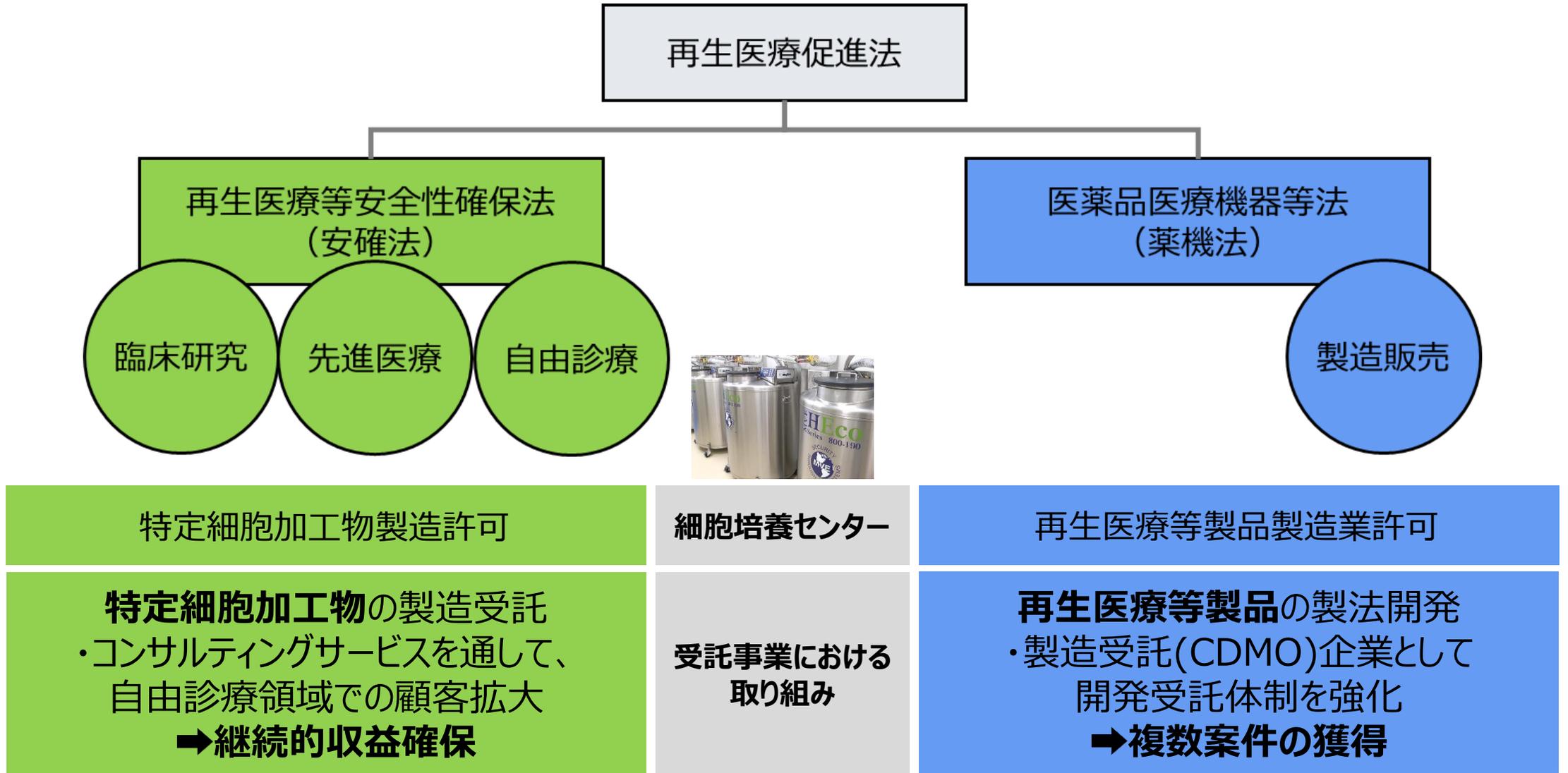
目次

● 会社概要

● 各事業の進捗状況

- 細胞シート再生医療事業
- 再生医療支援事業
 - ① 再生医療受託事業
 - ② 細胞培養器材事業

● 事業計画

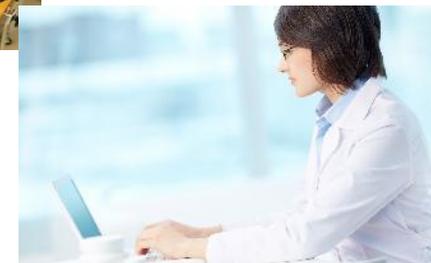




VISION2030: 受託事業の取り組み



① 当社の受託サービスの概要



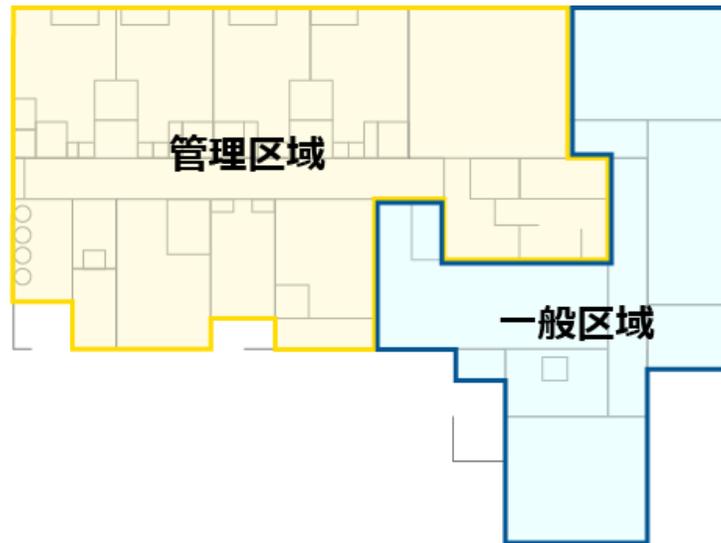
細胞シート受託事業の 目指す未来

- ① 継続的な案件獲得による、安定的な収益の確保

2016年に設立した細胞培養センターは、2017年3月に「特定細胞加工物製造許可」を取得、2018年10月に「再生医療等製品製造業許可」を取得し、細胞シートの製造販売承認取得に向けた開発を進めております。

- 延べ床面積：763m²
- 4つの細胞操作エリア
- 自動モニタリングシステム
 - 清浄度
 - 室圧
 - 温湿度
 - 機器（培養器、冷蔵庫等）の稼働状況
- CPF内監視カメラシステム
- 特定細胞加工物製造許可
(施設番号：FA3160008)
- 再生医療等製品製造業許可
(製造業許可番号：13FZ110001)

見取り図



施設写真

細胞組織保管室



細胞操作室



施設内通路



細胞操作室



● 再生医療受託サービスの特徴



「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に対応し、「再生医療等製品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令（GCTP省令）」に準拠した製造・品質管理体制で、経験豊富なスタッフによる、安全で高品質な製品やサービスを提供



細胞シート製品や各種細胞製品の受託製造に加え、再生医療等の提供に必要な各種申請資料の作成支援、技術者の教育などを支援

● 主な実績 ※一部、未開示情報含む

- 歯根膜細胞シート（医師主導治験：東京女子医科大学、東京医科歯科大学）
- 自己軟骨細胞シート（先進医療：東海大学）
- 小児自己上皮細胞シート（臨床研究：国立成育医療研究センター）
- 細胞シート培養・剥離トレーニング
- 各種申請資料作成支援

（自由診療：池上総合病院：軟骨細胞シート） （自由診療：東京都立多摩北部医療センター：食道再生上皮シート）

● 池上総合病院が実施する膝関節軟骨損傷に対する自己軟骨細胞シート移植（自費診療）に用いる細胞シートの製造

対象：外傷や変形性膝関節症により膝関節軟骨に損傷がある方

- 東海大学が実施する先進医療の適応対象外の方
- 海外からのインバウンド



再生医療で膝の痛みを改善！
変形性膝関節症の最新治療

池上総合病院でも治療が可能

自己細胞シートによる軟骨再生治療は厚生労働省の承認のもと、日本国内で唯一東海大学医学部付属病院でおこなわれ、重い有害事象は見られず、痛みと関節機能の改善が確認されています。現在東海大学医学部付属病院で治療をおこなっている佐藤医師が当院でも治療をおこないます。

【健康保険外診療】
現在、保険収載されていない手法なので適用されません。
自由診療となります。
自己細胞シート作成、移植の費用についてはご相談下さい。

佐藤 正人
東海大学医学部外科系整形外科教授
池上総合病院 整形外科(非常勤)

質問・お問い合わせ
整形外科外来まで

池上総合病院HPより

自費診療領域に用いる細胞シートの製造受託による、受託事業の拡大に期待

地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立多摩北部医療センターより、食道再生上皮シートによる食道狭窄治療の自由診療に用いる細胞シートの製造受託

対象：食道がんの治療にあたり、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を行った直後の患者やESD後の難治性狭窄の患者に対して、細胞シートをがん除去後の創傷部分へ移植することで食道狭窄を抑制・防止する治療法

多摩北部医療センターで 再生医療 が始まります

食道がん治療後の狭窄を防ぐ

細胞シート

食道狭窄治療

当院で、食道狭窄治療における細胞シートを使った自由診療の再生医療が始まります！
細胞シート工学は、再生医療を飛躍的に進歩させる画期的な技術として注目されています。



31 東京・首都圏経済

食道がん、細胞シート治療

東京都立病院機構
多摩北部医療センターが再生医療

患者自身から作製 手術後の狭窄防ぐ

東京都立多摩北部医療センターで、食道がん治療後の狭窄を防ぐ細胞シートを使った自由診療が始まりました。細胞シートは、患者自身の細胞から作製し、食道がん除去後の創傷部分に移植することで、食道狭窄を抑制・防止する治療法です。

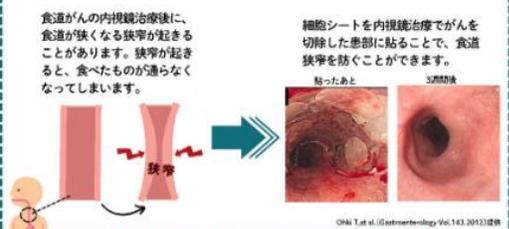
食道がんの内視鏡治療後に、食道が狭くなる狭窄が起きることがあります。狭窄が起きると、食べたものが通らなくなってしまいます。

細胞シートを内視鏡治療でがんを切除した患部に貼ることで、食道狭窄を防ぐことができます。

細胞シートの登場で、身体に優しい治療が実現

食道の狭窄に対して、通常はバルーン拡張術という治療法で狭くなった食道を押し広げたり、ステロイドを用いて狭窄を防ぐ方法があります。しかし、部位によっては痛みが生じたり、副作用が伴う場合があります。

細胞シートを用いた食道狭窄治療では、患者さん自身の細胞を使うため、拒絶反応もなく狭窄を防ぐことができます。



細胞シートの登場で、身体に優しい治療が実現

食道の狭窄に対して、通常はバルーン拡張術という治療法で狭くなった食道を押し広げたり、ステロイドを用いて狭窄を防ぐ方法があります。しかし、部位によっては痛みが生じたり、副作用が伴う場合があります。

細胞シートを用いた食道狭窄治療では、患者さん自身の細胞を使うため、拒絶反応もなく狭窄を防ぐことができます。

多摩北部医療センターHPより



目次

● 会社概要

● 各事業の進捗状況

- 細胞シート再生医療事業
- 再生医療支援事業
 - ① 再生医療受託事業
 - ② 細胞培養器材事業

● 事業計画

UpCell®

温度応答性ポリマーを器材表面に固定し、細胞に損傷を与える酵素を用いることなく、無傷な細胞がシート状に回収可能。



RepCell®

UpCell®と同様の特徴に加えて、表面のグリッド・ウォールにより小コロニー状での細胞回収が可能。



HydroCell®

独自のナノ表面設計技術を用い、超親水性ポリマーを器材表面に固定。ES細胞の胚様体形成やマクロファージ培養に最適。



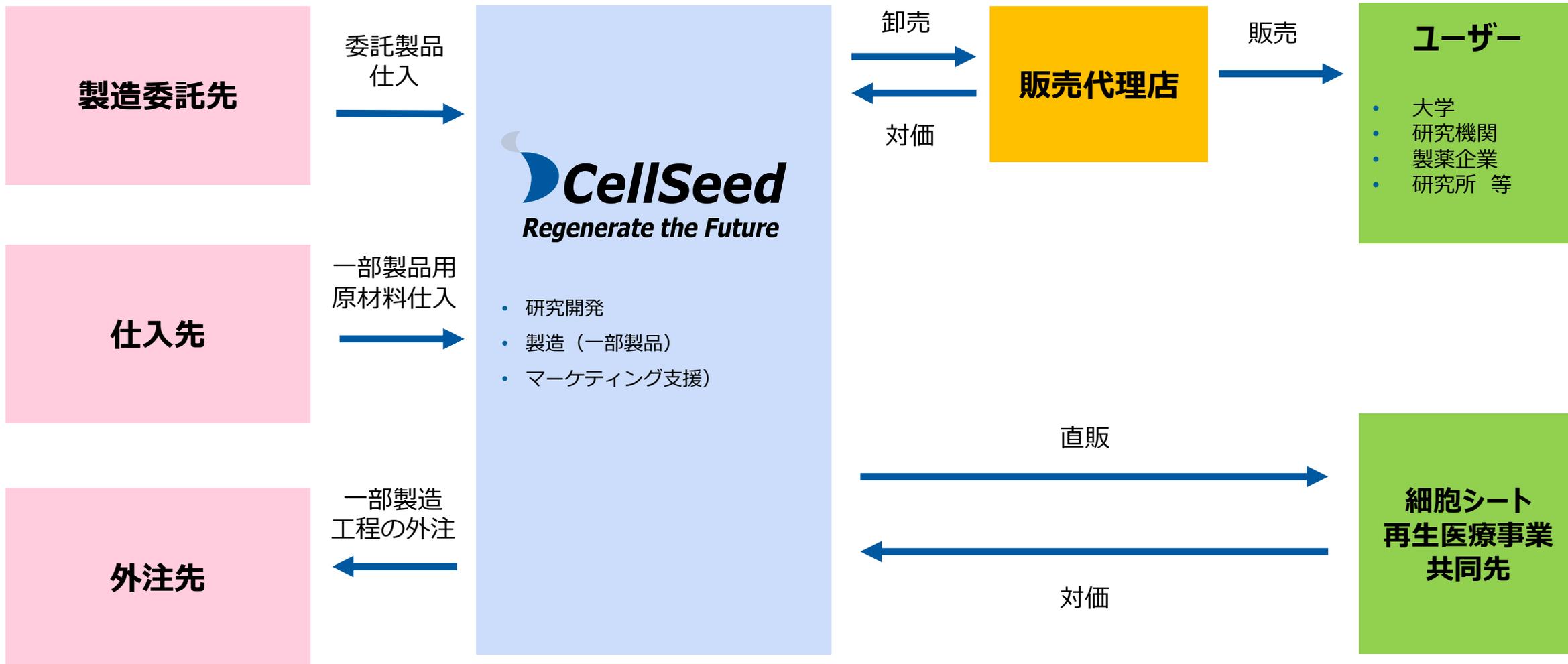
cellZscope™

細胞層の経上皮/内皮電気抵抗値を自動測定する装置で、バリア機能の測定、化合物の吸収や排出メカニズムの解析、細胞毒性の解析などの研究に最適





再生医療支援事業（器材事業）の収益構造概要





これまでの再生医療等製品での実用化実績

● 複数の承認された再生医療等製品で当社の細胞シート工学の技術が使用されています。

- ハートシート (テルモ株式会社)
- ネピック
(株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング)
- オキュラル
(株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング)
- リハート (クオリプス株式会社)

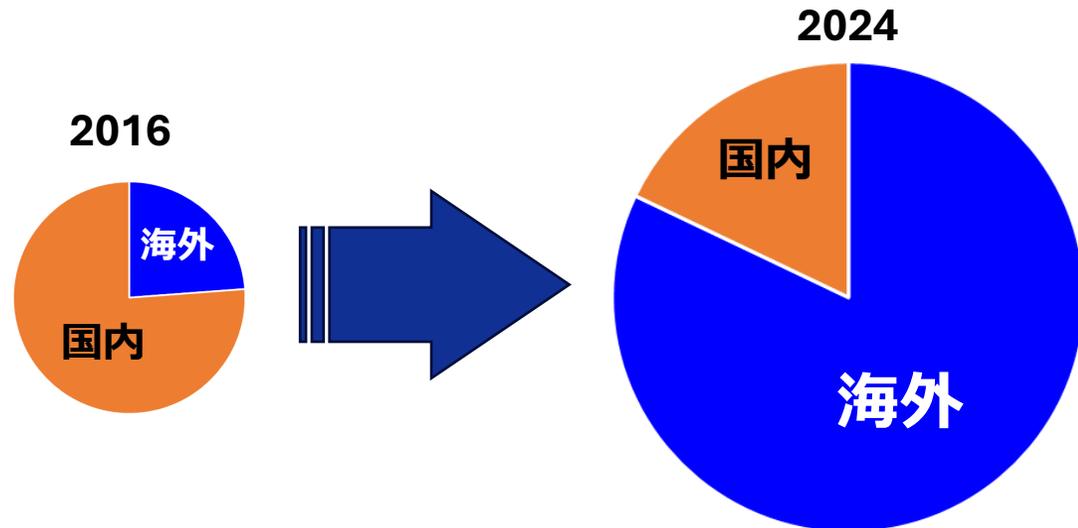
1989年	東京女子医科大学の岡野教授が温度応答性細胞培養器材を発明
2004年	RepCell [®] 、HydroCell [®] の販売開始
2007年	UpCell [®] の販売開始
2010年	cellZscope [®] の販売開始
2011年	ThermoPlate [®] 販売開始
2015年	再生医療等製品 ハートシート (テルモ株式会社)承認 (構成品としてUpCell [®] 採用)
2017年	HydroCell [®] フラスコの販売開始
2019年	Thermo Fisher Scientificを通じた海外販売が拡大し、前年比200%達成
2020年	器材ビジネスとして初の売上1億円突破
2021年	・Thermo Fisher Scientificとの販売契約を2025年まで延長に合意 ・細胞培養器材製品専用の開発・製造施設を新設
2022年	新製品UpCell [®] フラスコの販売開始 UpCell [®] ADVANCEが米国FDAのMAFに登録

◎ 海外市場における器材事業の着実な成長と急減

細胞培養器材事業における
10年間の売上推移



- ◎ 2016年から2024年における海外売り上げは、12倍に成長
- ◎ 2024年における海外販売比率 80%以上に増加
- ◎ 2025年、アメリカにおける政策変化により器材事業の売上が急減



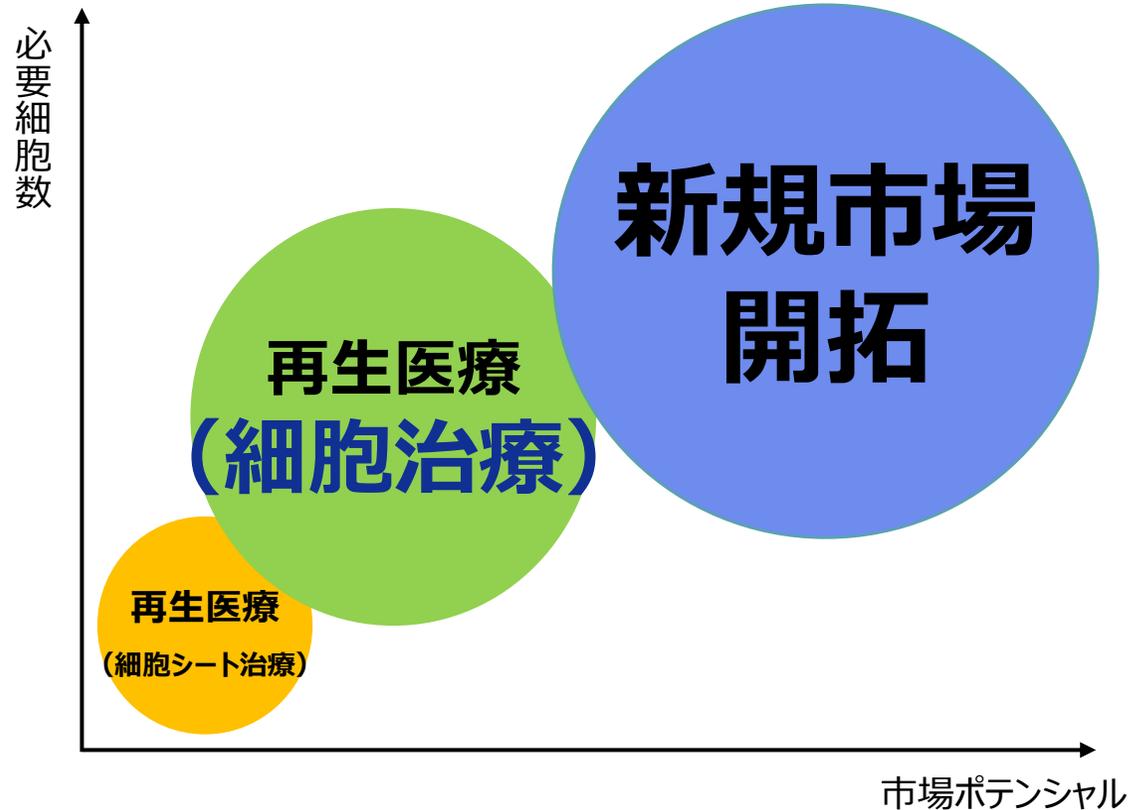
当社 器材事業部門 販売データ

◎ 海外市場における販売回復とさらなる拡大へ

- ◎ 当社は、一貫した品質・サービスの提供と、より一層の顧客満足を充実させるため、品質マネジメントシステムを構築し、国際規格であるISO9001:2015の認証を2020年1月に取得しております。
- ◎ また、再生医療・細胞治療等製品の開発用として数々の品質管理項目をクリアし高い品質が担保された製品である *UpCell*[®] ADVANCEが、米国食品医薬品局 (FDA) のメディカルデバイスマスターファイル (Master File for Devices, MAF) に2022年12月、登録されました。
- ◎ 海外市場において当社器材製品の認知度を広め、更なる販売拡大を目指して、海外研究者へのプロモーション活動を積極的に実施します。



④ 温度応答性培養器材の産業利用を目指した市場開拓



ニーズの拡大

- ④ 現在の主な利用目的は細胞シート製造
- ④ 細胞治療・細胞性食品の開発など、細胞の大量培養・大量回収のニーズが拡大

当社の製品開発

- ④ 大量培養・大量回収が可能なフラスコ型 UpCell®を開発、販売開始



細胞培養器材事業の目指す未来

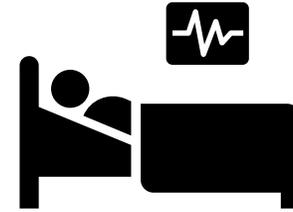
更に大量の細胞回収を可能とする培養器材の開発
➡再生医療領域からより身近な用途・市場への拡大



私たちの目指す未来



アカデミア



患者さまへ

アカデミアで生まれた革新的治療法を育て、患者さまのもとへ届けます



日本発、世界初の細胞シート工学による治療を世界へ



目次

① 会社概要

② 各事業の進捗状況

- 細胞シート再生医療事業
- 再生医療支援事業
 - ① 再生医療受託事業
 - ② 細胞培養器材事業

③ 事業計画



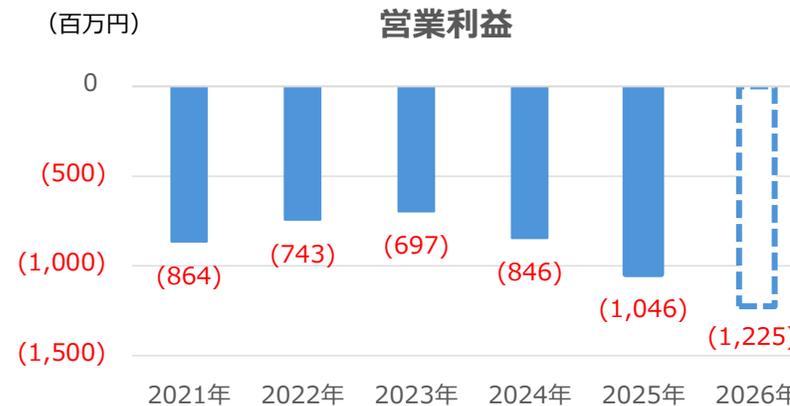
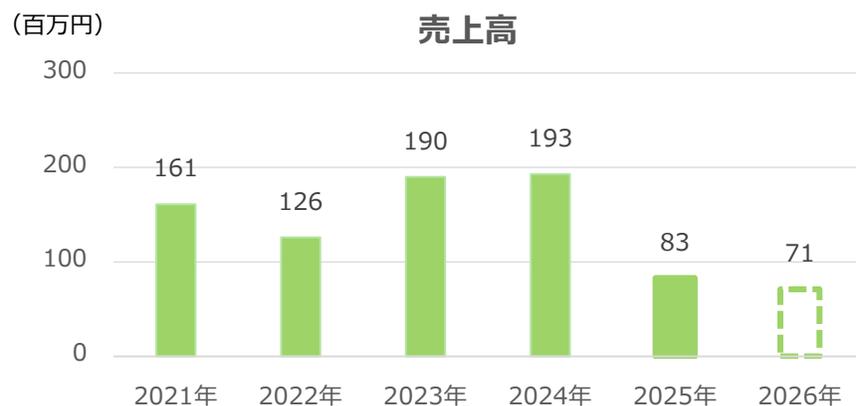
2026年12月期業績予想



単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
第2四半期（累計）	32	△580	△590	△660	△16.94円
通期	71	△1,225	△1,250	△1,320	△30.51円

■ 売上高及び営業利益の推移



2025年12月期については、売上高80百万円の業績予想値※に対して実績値が83百万円(+3百万円)、営業利益△1,040百万円の業績予想値に対して実績値が△1,046百万円(△6百万円)となり、新株予約権戻入益2,720千円、減損損失52,717千円を計上した結果、当期純利益△1,095百万円の業績予想値に対して実績値が△1,104百万円(△9百万円)となりました。

2026年12月期の売上高は、細胞培養器材事業において前年に引き続き海外研究機関の予算動向や地政学的リスクによる研究活動への影響が一定程度継続する可能性を踏まえ、慎重な売上計画としております。一方、再生医療受託事業については、医療機関や企業からの製造受託による新規受注案件の獲得に注力し、売上拡大を目指してまいります。これらを踏まえ、売上高は前期実績83百万円から減収となる71百万円を見込んでおります。利益面につきましては、同種軟骨細胞シートの治験進展に伴う開発費用の増加などにより、2025年12月期と比較し減益となる見込みです。

※2025年12月期の業績予想は、2025年11月13日付「業績予想修正に関するお知らせ」にて公表した内容を反映しております。



業績予想の計画達成のための具体的な施策・前提条件・数値根拠

① 再生医療支援事業

- 海外研究者に対する器材製品の認知度を向上させるためにプロモーションを積極的に実施し、海外売上のさらなる拡大を目指す。
- 世界的に需要が拡大している細胞の大量培養・回収に適した製品であるUpCellフラスコの海外展開を加速する。
- 特定細胞加工物の製造受託・コンサルティングサービスを通して、自由診療領域での顧客拡大、継続的な収益確保を目指す。
- CDMO企業としての積極的な営業活動の展開による新規受託案件の獲得に注力する。

② 細胞シート再生医療事業

■ 同種軟骨細胞シート

- ・症例を計画通りに組み入れるため、医療機関と密に連携し、必要に応じて施設追加を検討する。
- ・市販後の製品の安定供給のためマスターセルバンク及びワーキングセルバンクの作製を継続する。
- ・市販後の製品製造の効率化を目指して自動化・システム化の導入に取り組む。
- ・製造販売承認に向けて社内体制の整備する。

■ 新規パイプライン

- ・新たなパイプラインの探索を行い、開発に向けた具体的な計画の検討を行う。

■ 事業提携

- ・事業化の加速、また将来の同種軟骨細胞シートの販売に向けて、引き続き複数の企業との事業提携及び共同研究契約の締結に向けた活動を積極的に推進する。

③ 全社・共通事項

今後の必要資金については、現有手元資金を充当するほか、様々な金融的手法の活用により確保していく方針であります。また、2024年2月6日付にて三顧股份有限公司（MetaTech(AP)Inc.、以下 MetaTech）より訴訟の提起を受けておりますが、当社として今後、当該訴訟に対し適切に対応してまいります。なお、当該訴訟の提起が、当社の今期業績に与える影響は現時点ではないものと判断しておりますが、今後開示すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。



ファイナンスによる資金調達



当社は、2023年6月5日に第24回新株予約権（行使価額修正条項付）を発行、2025年12月8日に第25回新株予約権（行使価額修正条項付）を発行しました。資金使途は、研究開発資金、器材製品の開発・製造運営資金、運転資金であり、充当状況は下記のとおりです。

● 第24回新株予約権充当状況

単位：百万円

対象	内容	調達金額	充当金額	2025/12期	2026/12期
研究開発資金	同種軟骨細胞シート臨床試験準備・実施費用等	1,014	943	→	
	細胞培養施設運営資金	373	232	→	
運転資金	本社機能運営費用等	606	461	→	
合計		1,993	1,637		

● 第25回新株予約権充当計画

単位：百万円

対象	内容	調達金額	充当金額	2026/12期	2027/12期	2028/12期
研究開発資金	同種軟骨細胞シート開発のための臨床試験費用	1,790	—	→		
	同種軟骨細胞シート開発のための細胞培養施設運営資金	294	—	→		
器材製品の開発・製造運営資金	器材事業の開発・運営費用	474	—	→		
運転資金	本社機能運営費用等	698	—	→		
合計		3,256	—			

※第25回新株予約権は新株予約権発行決議時点（2025年11月20日）の予定金額のため、今後の割当先の新株予約権の行使状況や当社の株価推移等によって調達金額は変動いたします。充当金額は2026年2月末までの充当金額を記載しております。



リスク情報

当社の事業に関してリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項は以下になります。

リスクの種類	リスクの内容	対応策
再生医療支援事業について	<ul style="list-style-type: none"> 細胞培養器材は付加価値が高い一方で価格水準も高く、販売促進方針等により価格を引き下げた場合の収益低下 地政学的な不安定要素の継続、研究活動の低下に直結する想定外な研究費および研究員の削減 委託元の開発の遅れや方針変更等により受託業務の解約や収益化遅延 委託元での患者の集患状況により、受託件数が減少した場合の収益低下 	<ul style="list-style-type: none"> 海外プロモーション強化および代理店活用による新規ユーザーの獲得 委託元と密に連携し、委託元の開発スケジュールや意向の把握 委託元の集患施策の支援及び新規顧客の開拓
細胞シート再生医療事業について	<ul style="list-style-type: none"> 再生医療事業は確立途上のため確立された事業基盤が存在しないことによる時間と多額の費用が必要 被験者の条件の制約による対象患者の組み入れが計画通り進まず治験遅延への影響 提携先の選定に時間を要することによる承認申請の遅延 	<ul style="list-style-type: none"> 既存社員の実務経験を通じた人材育成と即戦力となる社員採用を平行することによる事業基盤の確立 現在と異なる地域の医療機関の追加による対象患者の確保 提携候補先と密に協議を行う一方、申請準備を進め、申請スケジュールへの影響を最小化
財務状況について	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発活動の推進に伴う運転資金、研究開発投資及び設備投資等による資金需要の増加 	<ul style="list-style-type: none"> エクイティ・ファイナンス、事業提携の実現による資金需要の充足

記載内容は当社株式の投資に関する全てのリスクを網羅しているものではありません。当社は、これらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生回避及び発生した場合の迅速な対応に努める方針ですが、当社株式に関する投資判断は、上記の記載内容並びに有価証券報告書「事業等のリスク」をあわせてご参照ください。

また、当社は今後同種軟骨細胞シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで、当該状況の解消を図ってまいります。



本資料の取り扱いについて

- 本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれております。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、公開情報等の正確性、適切性等について当社は検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いかねます。
- 本資料の更新は、今後、2027年3月を目途に開示を行う予定です。

お問い合わせ先：当社ホームページIRお問い合わせ

<https://www.cellseed.com/contact/ir/>